

## E 脈の太さの異常

脈の太さには絶対的な基準はなく、通常の脈が標準になる。通常の脈が「不大不小」であり、触れた指先から溢れるように太い脈を「大脈」、かなり細く感じる脈を「小脈」「細脈」という。

二十八脈中には小脈・大脈という呼称はなく、「細脈」が小脈にあたり、「洪脈」が大脈を含むので「洪大」とも呼ばれる。厳密には、洪脈と大脈には違いがあるので、大脈についても付記する。

### 1. 細脈（さいみゃく）

脈象：脈細如線，但応指明顕  
主病：気血両虚・諸虚劳損・湿病

通常の脈よりもかなり細く、糸のように感じる脈で、はっきりと触れる。「小脈」ともいい、「細小」と表現されることも多い。

#### (1) 気血両虚・諸虚劳損

営血が不足して脈道を充盈することができないために、細い脈となる。

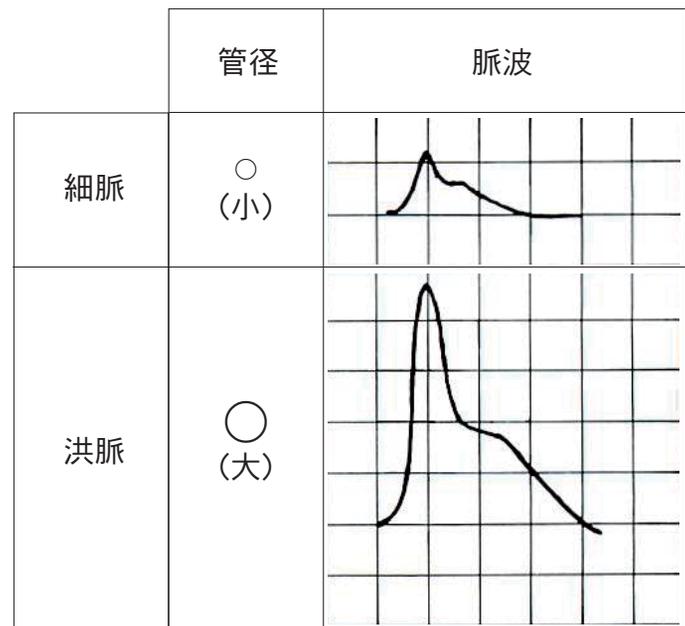
気血両虚の場合に最もよくみられる脈である。基本的には、血虚では細脈を、気虚では拍動無力を呈するので、気血両虚の脈は「細にして無力」である。

陰虚でも細脈がみられるが、細数で無力であり浮脈に偏することが多い。

温熱病で脈が細数に変化して意識障害を来すのは、熱邪が営血や心包に入ったことを示す。

#### (2) 湿病

湿邪が脈道を圧阻するために、脈が細くなる。



■ 図 11 細脈・洪脈の脈波模型

### 2. 洪脈（こうみゃく）

脈象：指下極大，如波濤洶涌，来盛去衰  
主病：気分熱盛・邪盛正衰

波が岸壁に打ち寄せるように勢いよく急激に拍動を触れたのちすぐに消退し（来盛去衰）、さらに脈は太く浮取ではっきり触れる。「洪大」と表現されることが多く、大脈であって「来盛去衰」を呈するのが特徴である。

脈波模型で概念的に示すと、図 11 のように鋭く大きな立ち上がりののちに減衰し、脈圧が非常に大きい。

脈波上の洪脈の特徴は以下のようである。

- 波高が大きい。
- 急峻な上行脚。
- 著明な減衰を示す下行脚。
- 大動脈切痕が低い不明瞭。

なお、実際にみられた洪脈の 2 例を図 12 に示した。